

慢性呼吸器疾患 看護認定看護師の 活動について

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 大峠 仁美

慢性呼吸器疾患看護認定看護師の役割

慢性呼吸器疾患は状態が悪くなったり良くなったりを繰り返しながら、全身状態が次第に悪化していく病気です。治療により症状が改善し、また楽になったと思っても、もとの元気な頃の状態に戻ることはありません。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）、喘息、肺線維症などの慢性呼吸器疾患患者さんの中には、普段生活している中で「息切れ」を感じることで、思ったように動けなくなる人もいます。

このような慢性的な呼吸器の病気を抱えながら自宅で生活する方々に対し、できるだけ息切れを感じることなく生活できるような方法を患者さんと一緒に考え、患者さんと家族の悩みや不安な気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活が送れるよう支援していくことが慢性呼吸器疾患看護認定看護師である私の役割だと考えています。

呼吸サポートチームの一員としても

私が慢性呼吸器疾患看護認定看護師の資格を取得して約3年が経ちました。現在私は、外科病棟で働いています。慢性呼吸器疾患の患者さんが全身麻酔での手術を受けると、手術後、傷の痛みや痰の量が増え呼吸がしづらくなります。そのため、手術後の患者さんが息苦しさを感じることなく過ごせるよう、痰を出す援助や、楽に過ごせる体位などをスタッフに指導しています。

今は主に入院中の患者さんと関わらせていただいているのですが、今後は、通院治療中の患者さんへの呼吸ケアを実践したいと考えています。

また、私は呼吸サポートチームの一員としての活動も行っています。呼吸サポートチームは、医師、看護師（診療看護師、集中ケア認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師）、理学療法士、臨床工学技士などの多職種で構成されています。人工呼吸器の設定が患者さんに合っているか、安全に管理されているか、チームで回



診し、安全で効果的な人工呼吸器管理が行えるよう支援を行っています。

最後に

私自身まだまだ学ぶことも多く、多職種のみなさんの助言を参考に活動しています。患者さんの苦痛を少しでも改善できるよう、患者さんに寄り添いながら呼吸ケアを行っていきたいと考えています。

